



超克

変革の瞬間、今をのりこえろ！
未来を切り拓くために…



社団法人 三原青年会議所
第49代理事長
原 邦高

写真提供 藤原 敏明氏

謹んで新春のお慶びを申し上げます。二〇一〇年の年頭にあたり、この一年が皆様方にとって最良の年でありますよう心よりお祈り申し上げます。また、旧年中は、社団法人 三原青年会議所に対し暖かいご支援とご協力を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

時代の鼓動

現在、我々が住む地球上では、食糧及び資源不足や都市化・工業化による自然環境破壊が進み、またサブプライムローン問題に端を発した金融危機がさらに深刻化することで、世界経済全体にその影響が拡大し、経済成長も著しく失速するなどの問題が起こっております。このことから、私たちは将来に確かな見通しが持てない中、未来に向けて、不安を抱きながら日々を過ごしているのではないのでしょうか。

昨年の総選挙において、これまでの政治に対するゆきづまり感から、市民意識に変化が現れ、その結果、圧倒的な存在感をもっていった政党が大幅に縮小し、変革を求めていた政党に政権が移りました。このことから、今、時代は変化を求めており、その変化に向けて変革のできる強いリーダーシップをもった真のリーダーが必要とされています。今こそ、新しい未来を切り拓くために、変革の能動者として、志を同じくする多くの人の英知と勇氣と情熱を結集し、今をのりこえてゆかなければならない時代なのです。

地域の確立をめがけて

日本の食料自給率は四〇％を割り込み、数多くの食品を諸外国からの輸入に頼りながらも、未だに飽食国家として位置付けられております。このままでは、生きる上で基本となる食に対しての安全と安定供給に対して、不信感と不安感を常に抱えることとなります。

今後、安全な食料の安定確保と地場産業の発展を繋げて考え、地域で生産し、地域で流通し、地域で消費す

るローカルファースト、つまり地産地消が一つの理想モデルと考えられます。三原における地産地消が、地域アイデンティティを活かした上で、市民自らが積極的に携わってゆける形にすれば、一体となった地域の相乗効果が高まり、地域の大きな力となるでしょう。

郷土愛を育む

私達を取り巻く地域社会は、物質的に豊かになることで、自然の恵みに感謝する気持ちが少なくなり、人に頼らず生きてゆけるようになったことで、人間関係が希薄になっていくことから、社会や他者に対して無関心になり、利己主義的な価値観の中で、心は貧しくなっているように感じます。このような状況は、地域で暮らす子ども達が郷土三原に関心を持つ事や、積極的に地域の人の関わりを持つ事を大きく阻害していると考えます。

困難を超克し(乗り越え)成し遂げてゆく!

未来を担う子ども達を心豊かに育むため、行政や各諸団体と連携を図りながら、子ども達が郷土三原の歴史・伝統・文化・風土・自然などに関わる機会を積極的に提供することで、地域の大人との交流を通して、地域に根差すことの素晴らしさを伝えてゆき、郷土三原を愛する心を育んでまいります。

何かを成し遂げようとするときには必ず障害となる壁が、立ち塞がります。その壁に負けず、若さと行動力、熱い情熱、高い志をもってのりこえてゆきたいと思えます。最後にになりましたが、社団法人 三原青年会議所 第四十九代理事長として精一杯努力してまいりる所存です。本年度も皆様方の暖かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。併せて、本誌「やっさもっさ」のなお一層のご愛読をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



またかきいたか

一昨年末から日本を含め先進国の経済は猛烈な北風にさらされ、出口の見えないトンネルにポーンと放り込まれたような暗いムードを引きずるも、二〇〇九年の後半にかけて政権交代・新県知事・広島・長崎のオリンピック招致など様々な新風が吹込んできた。◆また、昨年末から二〇一一年にかけて司馬遼太郎氏の代表的長編歴史小説「坂の上の雲」がNHKのスペシャルドラマとして映像化された。明治中期の日本を「少年の国」と表現し、新たな価値観の創造に苦悩・奮闘するこの国の成長過程に、現代も似た状況に直面していることに心を揺さぶられている。◆このまちで明るく心豊かに過ごしてゆかために、今の自分に「何が出来るか」ということよりも、自分が「何をしたいか」という明確なビジョンを持つことが不可欠である。行動の原点を市民・行政それぞれ自覚すると共に責任を持つことが国益に繋がってゆくことを歴史も示している。◆時代の旗振り役には大きな夢や「高い志」を掲げることが最も必要とされる要素であり、特に強風が吹き荒ぶ状況下にそよぐ旗は、人々の心の拠り所なくてはならない。◆人とひとのコミュニケーション不足が加速気味になっている二十一世紀。様々な人や地域との融合に果敢に取組み、各々手を携えその手の温もりを肌で感じあえる環境づくりが北風を押し退ける太陽となるのではなからうか。